

池子米軍住宅計画と21世紀のまちづくりの萌芽

◆私の注目点

- ・この時期、池子米軍住宅建設計画が大きく動いている時期であり、米軍基地関連を「その他」に分類した。
- ・みなとみらい21のまちづくりの準備、湘南なぎさプランが発表されるなど、21世紀の新しいまちづくりを目指す萌芽が見られた。
- ・旧日本火災横浜ビルの建替や鎌倉文学館の開館など歴史的建造物を保存活用する動きも見られた。

◆こんな事がありました

- ・長洲県政の4期目に当たり、安定期に入った。
- ・昭和の末期に掛けて、プラザ合意による円高不況、地価高騰によるバブル景気が始まった。
- ・池子米軍住宅建設計画が県政・逗子市政・米軍・防衛庁など、対米関係、地方行政、市民運動が複雑に絡み合って展開された。
- ・みなとみらい21や湘南なぎさプランなど、現在の都市の骨格を形成する新しいまちづくりが進められた。
- ・横浜市の歴史を生かしたまちづくり要綱の施行など、歴史建造物を保存活用するという時代的な転換点が見られた。

◆年表作成を通して考えたこと・感じたこと

- ・一つ一つの出来事を深く掘り下げて調べるのではなく、それぞれの出来事を等価に並べて、年表に掲載するため、時系列で整理していく作業は新鮮だった。
- ・出来事に対する重要性について、当時と現代の時代認識の違いを感じた。
- ・神奈川県は米軍施設が多く、池子米軍住宅建設計画を通して、活発な市民運動が展開され、改めて基地問題と市民生活の相克を感じた。
- ・年表作成を通して、現在のまちづくりにつながる萌芽を改めて認識した。

【キーワード】

- 池子米軍住宅建設計画
- MM21 地区まちづくり
- 湘南なぎさプラン
- 旧日本火災海上ビル建替
- 横浜そごう開店
- 交通事故非常事態宣言
- 大学新キャンパス計画
- 円高不況バブル景気
- 民営化(NTT・JT・JR)
- 男女雇用機会均等法

【こんな資料を参考にしました】

- 『神奈川新聞』 『神奈川年鑑』各年版 神奈川新聞社(県政・県議会の動向など)
- 『情報の歴史』松岡正剛 NTT出版 1992(国内・国際の動向)
- 『逗子市史 通史編』逗子市 1997
- 『都市デザイン横浜』横浜都市デザイン50周年事業実行委員会、横浜市都市整備局 2022

◆年表編さん方針

- ・従前の1980年(昭和55年)までの『神奈川県史年表』を参考に作成し、凡例も原則として、県史にならった。

(1)県史年表【1980年(昭和55年)】の分析

①項目分類

- ・従前の県史年表は、下記4項目に分類され、主な特徴は次のとおりであった。

○国内・国際(22件)……国内の主要な出来事、国際的な主要な出来事。短く記載し典拠なし。

○政治・行政(26件)……県政・県議会の主要な出来事、条例制定、行政計画策定、人口動向、選挙、米軍動向、基地問題

○財政・経済(14件)……企業動向、予算財政、開業、倒産、協議会、交通、鉄道、都市計画

○社会・文化(23件)……イベント、スポーツ、文化事業、文化財、教育

件数としては、全体で85件取り上げられていた。上記項目に含まれないものはない以上、今回、新しく設けられた「その他」に何を分類するか、が課題となった。そこで、神奈川県1985年～1988年という時代特性上、「池子米軍住宅建設計画」が大きく動いている時期であり、米軍基地関連を含めて、「その他」の事項で、取り上げることとした。

②典拠の確認

県史年表について、出典があるものを確認したところ、「神奈川新聞」が34.9%(22/63件)、「神奈川年鑑」が15.9%(10/63件)と、多いことが判明したので、主に2つの資料を用い、その他補足として、トピックに関連した文献を参照した。

(2)今回の分類

(1)の検討をもとに、次のとおりの分類とした。

○国内・国際……日本国内の主要な出来事、国際的な主要な出来事

※主に国内・国際の動向を表すため、県内の動向の特出しは行わなかった。

○政治・行政……県政・県議会の主要な出来事(池子関連は除く)、条例制定、行政計画策定、人口動向、選挙

※市町村の動向であっても、県全体に影響を与えた事項を取り上げた。

○財政・経済……企業動向、予算財政、開業、倒産、協議会、交通、鉄道、都市計画

○社会・文化……イベント、スポーツ、文化事業、文化財、教育、災害

○その他・・・池子米軍住宅建設計画、米軍基地関連

(3)年表作成の手順

- ・『神奈川新聞』の「県内10大ニュース」、「県内主な出来事」を参考に年表に掲載する項目を拾い上げた。
- ・県政・県議会の通年の動向や詳細な出来事を確認するため、『神奈川年鑑』で補足した。
- ・特に「国際・国内」の動向については、『神奈川年鑑』により、『情報の歴史』で補足した。
- ・ただし、新聞媒体の特性上、事件・事故等の逐次性・速報性・報道性が強く、後年への影響が少ないものは、取り上げなかった。

◆年表作成に当たって

- ・年表作成に当たる課題や方針について、「年表をめぐる諸問題」『第34回 県史だより』において、年表の作成者による対談の記録があり、それを参考とした。そこでは、①歴史的に残し得る価値のある歴史的事件を書く、②1か月後、1年後、10年後に重要だと思うことが異なる、③年表に出典を書く、④なるべく公正な歴史叙述とする、ことが指摘されていた。
- ・今回の作業に当たり、改めて、歴史研究にとって、地味ではあるが大事な作業と認識し、基礎資料として役立つ年表になるよう心掛けた。

◆池子米軍住宅建設計画の歴史的背景

- ・池子米軍住宅建設計画が県政・逗子市政・米軍・防衛庁など、対米関係、地方行政、市民運動が複雑に絡み合って展開された。
- ・この経過を深く掘り下げることは年表作成の目的を超えるため、その歴史的背景などの付記に留める。
 - ① 池子弾薬庫は、戦時中、旧日本海軍が接収し、戦後、米海軍に移管され、弾薬貯蔵庫として使用されていたこと
 - ② 昭和29年、市議会で「駐留軍接収地一部返還要請」決議が全会一致で成立し、返還運動が行われていたこと
 - ③ 逗子市の面積の約14%を占めること など

◆21世紀の新しいまちづくりに向けて

- ・国鉄民営化に代表されるように、「官から民へ」「量から質へ」の大きな時代の変化が見られた時期であった。
- ・みなとみらい21地区は1985年(昭和60年)4月に日本丸の一般公開、1987年(昭和62年)10月に横浜博覧会の起工式、1988年(昭和63年)7月に「みなとみらい21街づくり基本協定」が締結されるなど、21世紀に向けて横浜の副都心のまちづくりが着々と進められていた。
- ・湘南地区においては、1985年(昭和60年)に、21世紀の湘南海岸の姿を示す「湘南なぎさプラン」が策定された。その後、国道134号や沿岸の公園整備が進められて、新しい沿岸部の景観形成が進められていった。
- ・一方、1985年(昭和60年)に旧前田侯爵家の鎌倉別邸を活用した鎌倉文学館の開館、1986年(昭和61年)に旧日本火災海上横浜ビルのファサード保存の決定、1988年(昭和63年)に横浜市歴史を生かしたまちづくり要綱が策定されるなど、歴史的建造物の保存活用の動きが見られた。
- ・高度経済成長期の量的開発の反省を踏まえ、21世紀型の新しいまちづくりを志向していた時期であったといえる。

○参考文献

- 「年表をめぐる諸問題」『第34回 県史だより』 神奈川県県民部県史編集室 1982
『池子の森-池子弾薬庫返還運動の記録-』 逗子市 1993
『横濱 歴史を生かしたまちづくりの25年』 横浜歴史的資産調査会 2013
『ウォーターフロントシティ横浜 みなとみらいの誕生』 横浜都市発展記念館 2017